

開催報告

支部学術集会

第9回和歌山県支部学術集会

学術集会会長：橋本市民病院院長 山本勝廣



会場風景

2014年1月25日(土)、和歌山県勤労福祉会館にて、第9回和歌山県支部学術集会を開催しました。「スキルミクスとチーム医療～地域で考える医療の質～」をテーマに、特別講演1

題、一般演題42題、ポスターセッション24題、ランチオンセミナー1題、シンポジウムの発表が行われました。

特別講演は、国際医療福祉大学大学院教授の武藤正樹先生をお迎えして「スキルミクスとチーム医療」についてご講演いただきました。フィジカル・アセスメントをすることで副作用の早期発見を行う等、医療従事者の負担軽減やチーム医療における病棟薬剤師が果たす役割の大きさについて解説されました。また、最近のトピックスであるナースプラクティショナーについて、米国での活躍ぶりをご紹介いただき、わが国でも、今後、医師と看護師のスキルミクスが進んでいくことのお話を伺いました。

ランチオンセミナーは、自治医科大学医学部・感染制御部長の森澤雄司先生から「医療現場で考える耐性菌対策」についてご講演いただき、耐性菌対策のあり方を考える機会をいただきました。

シンポジウムは、「多職種の協働～地域医療の質の向上を目指して～」と題して、各職種4名の方から問題点の提起をいただき、活発な議論がおこなわれました。

皆様方のご協力をいただき、当日の参加者数は311名を数え、盛会に終えることができ、関係者の皆様方に感謝いたします。

第11回京滋支部学術集会

学術集会会長：京都第二赤十字病院院長 日下部 虎夫



会場風景

第11回京滋支部学術集会は2014年2月15日(土)、京都テルサ(京都市南区東九条)において開催しました。参加者は総数596人でした。

今回の内容は、特別講演1題、ランチオン

セミナー3題、一般演題162題が発表されました。

特別講演は、聖マリアンナ医科大学救急医学講座 箕輪良行

教授より「ジェネラリストの医者たちは医療連携でどう働くか」と題して救急医療における教育経験に基づきわかり易く講演していただきました。引き続き救急医療セミナーにもご参加いただき、京滋の7施設の救命センターからの発表ののち、ディスカッションにも加わって頂きました。

またランチオンセミナーは、石巻市立病院開成仮診療所所長の長 純一先生より「被災地・石巻における地域医療連携と地域包括ケアへの取り組み」、京都大学大学院医学研究科人間健康科学の山田 実先生より「高齢者の転倒予防を生活から考える」、テルモ社プラネックスの藤田規嗣先生・金丸知香先生より「実地臨床に近い医療研修・教育を考える」と題しての講演をしていただきました。

一般演題は27のセッションに分かれ6会場で実施しました。各会場とも参加者からの熱心な質疑が相次ぎ、特に「地域医療連携」、「医療の質」の 카테고리においては満席になるほど関心が高いものとなりました。

第7回大阪支部学術集会

学術集会会長：パナソニック健康保険組合松下記念病院院長 山根哲郎



会場風景

2014年2月15日(土) 新大阪丸ビル別館で、大阪府のみならず近隣の兵庫県や京都府から503名の参加者を得て開催されました。

特別講演では東北大学名誉教授の上原鳴夫

先生に「変わろう、変えようー患者本位の医療の質を提供するシステムづくりへ」と題した講演を、招待講演では有限会社バグジー社長の久保 華凶八氏に「天使の仕事」と題した講演をしていただき、参加者の皆様は大いに感銘を受けられたようです。今回はビデオカメラを用いて両講演を別会場でも放映し、より多くの方に聴いていただくことが出来ました。

その他、シンポジウムとして『地域医療連携』『医師事務作業補助』『医療安全』の3テーマを取り上げ、多くの参加者と共に活発な討論がなされました。

演題数「92題」と多数の発表や企業展示があり、大阪支部の活気が遺憾なく発揮された学術集会でした。2015年6月には本学会の学術総会(全国)が大阪で開催されますが、その折にも全国より多くの方に御参加いただけることを期待しております。

最後に、本学術集会の開催にあたり、ご協力賜りました関係各位には心より感謝の意を表し、開催の報告とさせていただきます。